

令和8年サワラ春漁の漁況予報

令和8年4月1日

香川県水産試験場

サワラ幼魚の資源量は、発生年によって変動が大きく、その多寡が翌年以降の漁獲量を左右します。そこで、0歳時の資源尾数に基づいて、令和8年のさわら流しさし網の春漁期における各年齢魚の漁獲状況を推定し、漁況を予測しました。

1. 0歳魚資源尾数の推定

0歳魚資源尾数（9月1日時点）は、国立研究開発法人水産研究・教育機構が、毎年度、サワラ瀬戸内海系群の資源評価を行って公表しており、令和6年発生群まで示されています。

一方、香川県水産試験場においても、県内海域で8月に収集した0歳魚の平均サイズ等から、令和7年発生群までの0歳魚資源尾数を推定しています。

予測に使うデータとして、令和7年発生群は、香川県水産試験場による推定値を用いました。令和4～6年発生群については、水産研究・教育機構が公表しているものの、誤差が大きいとされているので、これと香川県水産試験場による推定値の平均としました。令和3年以前の発生群は、水産研究・教育機構による推定値を採用しました。

2. 令和8年春漁の漁況予測

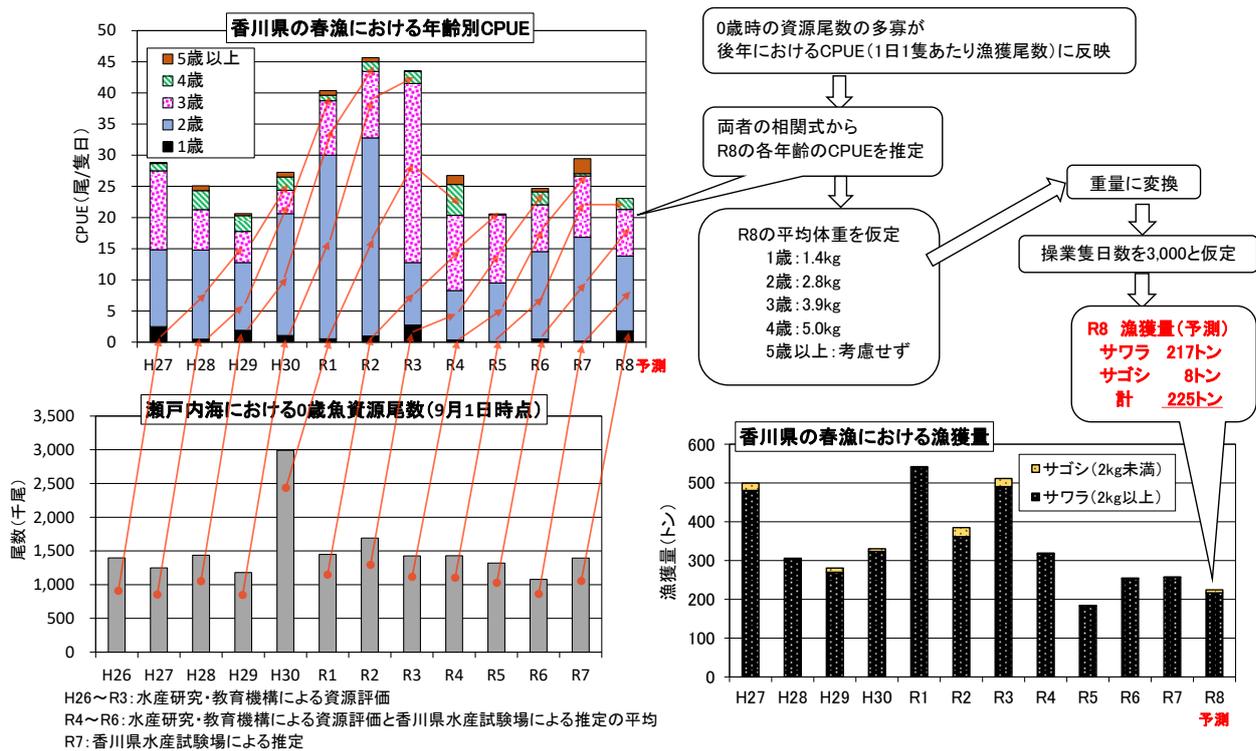
予測の方法と結果を次の図に示します。

左下のグラフが各年の瀬戸内海における0歳魚資源尾数ですが、年によって変動が大きいことがわかります。

左上のグラフは、香川県の春漁における年齢別のCPUE（1日1隻当たりの漁獲尾数）の推定結果ですが、2歳魚および3歳魚を主体として、組成は年によって異なっています。

0歳魚が多ければ、その2年後に2歳魚、3年後に3歳魚、4年後に4歳魚が多めに漁獲され、少なければその逆になるような相関関係があるので、これを利用して令和8年の年齢別のCPUEを算出しました。

年齢別の平均体重、操業隻日数を仮定して、重量に変換すると、右下のグラフに示すように、令和8年の漁獲量は225トンと推定され、前年よりやや減少する予測となりました。なお、海域による漁獲の大きな偏り、操業隻日数の大幅な変化等は、予測が外れる要因となります。



なお、サワラ瀬戸内海系群の令和7年度資源評価によると、令和6年時点の親魚量は4.1千トンであり、最大持続生産量（MSY）を実現する親魚量の12.9千トンを目指して、引き続き資源管理に取り組む必要があります。